

# 第4回校内研究会

単元：図形の移動（数学）

授業者：西田雄一

## 《全体研修会》（生徒の活動・学びの様子を交流します）

### 学校長より

授業の主役は生徒であり、授業者は子どもの学びを生み出すことが課題である。教材をいかに学び、自分のものにしていくのが学び合いである。栗津は男女の仲が良く、授業の中で学び合いを行うことで自然と話す機会が増えているからであると考えている。

### 授業者より

生徒について：

1年ということで学年の中では大人しい方のクラスである。行事を終えて盛り上がったところであったが、転校生の存在もあり、以前より大人しくなった。

授業について：

前半部分は教科書に載っている内容。後半部分はオリジナルの問題であり、3つの図形を使うことが難しいので作業という形で取り入れてみた。

### 1班

T：始まってすぐに学力差がよくわかった。Aが少しついていけていなかったなので、ずっとしていた。

前のBの動きを見て、なんとなく用意したり、書こうとしていた。CがAに対して「わかる？」という問いかけがあった。それに気付いたBが教えようとしていたが、時間がきてしまった。ジャンプの課題では、何とか図形の紙を触ろうとしていたのが、Aの参加であった。

N：1番に取りかかったのはBであった。Aは周りの様子を見ながらやっと取り組もうとしていた。

ジャンプの課題の緑の図形を動かすときに、Bが思いついた様子であったが、Aが何となく動かしていた。平行移動の仕方がわからなくなったようで、Dがノートを見て確認していた。

坂野：AとDに注目していた。技術ではAはしっかりと書くことができていた。Aは根本的に作図の仕方が分かっていなかった。周囲の人のそこまで余裕は無かった。

## 2班

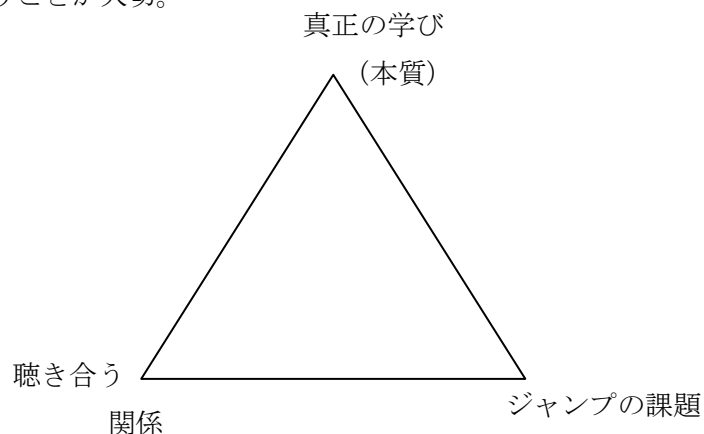
窪田：5人班であった。基礎の課題では、Eが仕切っていた。Fは自分の思いついたものをもくもくとしていた。周囲の子はEに聞く姿があった。5人班であったため、1枚の紙の置き方が難しいと思った。Gが見にくそうであったが、声をかけてあげている子がいた。

川畑：ジャンプの課題ではFが中心的に進めていた。FがGに対して「ついていける？」と聞く姿があり、よかったと思う。HもGに声かけをしていた。

平松：Iに対して、アドバイスしていた。Gが一人だけ遠い位置になっていたため話しに入って行けていなかったが、Fの一言から紙の位置が変わり参加できた。GからHに質問することができた。共同の学習がなければ、G学びはなかったと思う。

## 倉知先生より

- ここ2年くらい前から、落ち着いた学習の雰囲気である。
- 学びについて、知識を獲得するものではなく、学びを通して考える力を身に付ける。
- わかっていない子が中心であるようにする。わかる子が中心では、わからない子がいつまでも、入っていけない。聴き合うことが大切。



- 支援員さんに、その子に付きっきりになるのではなく、全体を見るようにしてもらおう。同じ子に付きすぎるとグループに入れない。
- 対象物に対して、学び合いができるのは良いこと。成果がだんだんと見えているように思う。
- 男の子が、机に伏せている様子が見られる。教師がその子たちに対して、どう接しているのか子どもたちに見せると子どもたちがそのようにやるようになる。一人の先生の声かけではなく、学年で統一して声かけをするように。友だちと関わられるようにし、良い経験をさせていく。
- 活発にしゃべるのが、良い授業ではない。静かに考えることは教科書を見て、自分で考えていることでもある。わからない時に聞けばよい。
- 本当に聞かなければいけない子たちが聞けていない。大半の生徒はわからない時に聞くことができている。5人の班は良いか悪いか子どもたちの反応で判断すればよいが、関わりにくい面がある。
- 子どもたちは、静かに問題を解いていたが良いと思う。わーわーしゃべらなくても良い。
- ジャンプの課題では、多様性があり、いろいろ考えることができるので良い。ただ、競争させるのではなく、共同させるようにする。
- 一つの物を使う時は、思考のツールとして使うのは良いと思う。